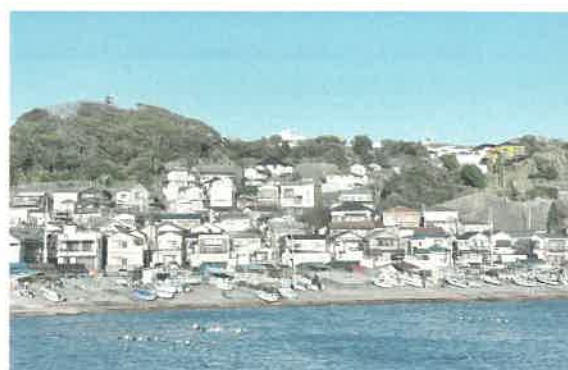


KOTUSUBONOSORA

こつぼのそら

((小坪の鎮守さま須賀神社 御神輿お披露目))



春の深まりとともに、空と海に清々しい青が広がる季節。

小坪の夏を彩る天王祭

奈良時代から続く33年に一度の行合祭を4年後に控え
須賀神社の御神輿が装いも新たにお披露目を迎えました。

小坪の街みなさまがすこやかな毎日をお過ごしいただけますように
『こつぼのそら』春号をお届けします。



発行：小坪小学校区住民自治協議会
Instagram：@kotsubo.umikazeterarace

2024

春号

こつぽびより

御神輿お披露目のご報告

2023年11月19日開催

小坪の街の歴史とともに親しまれてきた天王祭と三十三年大祭。

その華を飾るのが須賀神社の御神輿です。130年程前に造られた御神輿は、経年劣化による老朽化が懸念されていました。

昨年、氏子総代会の働きかけでご寄付を募り、各町内のみなさまをはじめ一般の方々からも多くのご寄進をいただき、この度無事に修繕を終えることができました。

昨年11月19日には、新たな命が吹き込まれて蘇った御神輿のお披露目を開催。

晴れやかな空の下、車両に乗せられた御神輿が須賀神社を出発。

東谷戸、天照大神社へ御参拝し、西谷戸、伊勢町、南町、西町、中里町の6町各町内を巡りました。

連綿と伝えられてきた御神輿という尊い文化がこれからもみなさまから愛され、

末長く受け継がれていくことを願います。



祭りの華を飾る 御神輿

熟練の神輿職人さんの匠の技によって、祭りの華々しい粋さ、繊細な装飾をまとった小坪の御神輿。担ぎ手の心意気まで伝わってきます。

小坪の御神輿の特徴

○屋根の上の鳳凰

鳥の王者として煌めく鳳凰の姿。五穀豊穡を祈り、稲穂を啜って大空を仰いでいます。

○胡瓜の紋様の装飾品

小坪の御神輿には「瓔珞（ようらく）」と呼ばれる装飾品に胡瓜の輪切りの紋様があります。須賀神社の祭祀、須佐之男を祭る神社の神紋とされています。

○二本造り

威勢よく、荒っぽく担げるように親棒が二本造りになっているのも小坪の御神輿の特徴のひとつ。



音色とリズムに心躍る お囃子太鼓

お祭りの活気を彩る祭囃子は「五人囃子」とも呼ばれ、小太鼓2人、大太鼓1人、笛1人、鉦1人の5人1組が基本。演奏されるのは主に5曲。曲目を組み合わせた「素囃子」を演奏することもあります。

お囃子太鼓の曲目

「鎌倉」「四丁目（しちようめ）」ひといき、のんびり、流して叩きます。

「昇殿」御神輿をお宮から借りてくるときに繰り返します。

「打ち込み」お囃子の開始を示す第一番に、勢揃いして威勢よく叩きます。

「仁羽（にんば）」各町内を流すときに叩きます。



貴重な伝承文化 お囃子太鼓 各町内からのメッセージ

伊勢町

「昨年の夏は各町からお囃子が聴こえてきて、この数年忘れていたあのワクワク感が蘇りました。お囃子には曲目が幾つかあって、すべてを覚えるまでに3〜5年程。参加して下さる方に一曲でも多く覚えてもらい「三十三年大祭で太鼓を叩いた!」という誇らしい経験のサポートができればと思っています。そして2060年の大祭で中心を担う今のお子さんたちにお囃子の魅力を伝え、小坪の大切な文化を継承してもらえるように引き続き活動していきます」

伊勢町 渡邊 E-mail: yutawattan@gmail.com



南町

「小坪漁港の一番奥にあり、他の町内より漁師町感にあふれる南町。毎年行われる天王祭、33年に一度、小坪の須佐之男命と葉山の奇稻田姫命の夫婦の神様が再会を果たす三十三年大祭が末永く続いていくことを願い、日々練習に励んでいます。前回の大会で手古舞役を担当したことは、幼心にも強く印象に残っている思い出です。毎年6月より浜小屋で練習が始まり、月1回程、自主練も行っています。見学自由ですので、いつでもお気軽にお越しください」

南町 Instagram: @ktb_minami_chooooo



西町

「かつて偶然見かけた小坪の三十三年大祭。賑やかでとても感動したのを憶えています。当時配られた冊子が今も手元にあります。御指導いただいた亡き先生方の顔もあり、懐かしくまた責任を感じる想いです。その大祭から10年程経った頃にご縁あって始めたお囃子ですが、当時始めた子どもたちも大きくなって、祭りから離れているのが現実。この素晴らしい文化が次世代へも伝承されることを願いながら、これからも活動していきます」

西町 関 E-mail: pen9459@ezweb.ne.jp



小坪の街を物語る 天王唄

海と山に囲まれた小坪に唄い継がれてきた天王唄は、街の風景や暮らしが浮かぶ情緒あふれる唄の文句が魅力。今では唄える人が少なくなった天王唄を知ることから年齢の方から次の世代へ伝えていく活動が行われています。

「天王唄」

谷戸を今朝出て 四町内を廻る「ハヨーイ」
四町の氏子が「ヤンデー」出て拝む

いつも変わらない 山田屋の前は「ハヨーイ」
昔は淀川「ヤンデー」船が着く

西へ曲がるか 南へ行こか「ハヨーイ」
ここが思案の「ヤンデー」下の橋

此処のお角を 曲ろじゃないか「ハヨーイ」
小坂天王に「ヤンデー」会いに行く

小坂天王が 門いりなさる「ハヨーイ」
表番所で「ヤンデー」裏ご門

南轅は 何処でも知れる「ハヨーイ」
櫛御幣「ヤンデー」お神酒鈴

南後にして 渚を渡る「ハヨーイ」
晩にゃ西町で「ヤンデー」日を暮らす

目度目度度の 若松様よ「ハヨーイ」
枝も栄える「ヤンデー」葉も繁る

さても見事な 小田原ツツジ「ハヨーイ」
もとは箱根の「ヤンデー」山ツツジ

高い山から 谷底見れば「ハヨーイ」
瓜や茄子の「ヤンデー」花盛り

零れ松葉を あれ見やしゃんせ「ハヨーイ」
枯れて落ちて「ヤンデー」二人連れ

笠を忘れて 駿河の茶屋へ「ハヨーイ」
空が曇れば「ヤンデー」思い出す

儘よ儘よで 此れ迄来たが「ハヨーイ」
もはや儘よじゃ「ヤンデー」おかれない

沖の鵜に 汐時間けば「ハヨーイ」
私や発つ鳥「ヤンデー」波に聞け

姉も差しなよ 妹も差しな「ハヨーイ」
同じ蛇の目の「ヤンデー」唐笠を

富士の白ら雪 朝日でとける「ハヨーイ」
娘島田は「ヤンデー」寝てとける

赤い布(きりよ)を掛け 島田の家は「ハヨーイ」
何故か心が「ヤンデー」定まらぬ

船も出もせで 柱を立て「ハヨーイ」
二度の想いを「ヤンデー」させやがる

船の新造と 女子の良いは「ハヨーイ」
人が見たがる「ヤンデー」乗りたがる

安芸の宮島 廻れば七里「ハヨーイ」
浦は七浦「ヤンデー」七恵比寿

大漁や豊作を願う 御神輿担ぎ

天王唄に合わせて担がれる小坪の御神輿。担ぎ方の主なルールをご紹介します。



御神輿担ぎのルール

- 天王唄の中に入る掛け声は担ぐ人たちを囃し、威勢を付けます。「ヤンデー」で勢い良く神輿を揺み、唄の最後の文句「オーオ」で揺み終わり、次の唄を待ちます。
- 御神輿を担いでいる間は、天王唄を切らず事なく唄い続けます。
- 天王唄は御神輿を中心にして、四角の順番に唄います。
- 天王唄の文句には決まった場所に御神輿が来るか、その場所を通り過ぎないと唄えない文句があります。



中里町

「中里町では10代と20代の3名がお囃子に参加しています。若手の師匠3名は小学1年生から始めて、今年に入り太鼓の先生になりました。昨年参加した小学3年生の子も「もっと上手になりたい!」と楽しんでくれています。伝統を繋ぎながら、今を生きる子どもたち一人ひとりが活躍して、お祭りを楽しめる環境づくり力を入れています。そんな中里町でお囃子をしてみませんか?子どもも大人も大歓迎!みなさんのご参加を心よりお待ちしております」

中里町 Instagram : @kotsubo_nakazatocho

西谷戸町

「私がお囃子を習い始めたのは40数年前、小学3年生の頃でした。お祭りの当日、山車の上で頑張ってた覚えがお囃子を奏でられることを誇らしく感じていました。今は教える立場となって子どもたちが一生懸命に楽しく稽古してくれていることを嬉しく感じています。小坪の中でも直接祭礼に関わっていない地域もありますが、参加してはいけないということではないので、我々西谷戸や関わっている町へ気軽にお声掛けいただき、ぜひご参加ください」

西谷戸 高橋 E-mail : makoto89696@yahoo.co.jp

東谷戸町

「東谷戸は須賀神社のあたりから北東に伸びる谷戸です。山や畑ばかりだった谷戸に移り住む人が増え、近年になってお祭りに参加するようになりました。GW明けから7月のお祭りまで、小坪小学校の体育館でお囃子の練習に励み、お祭り当日はトラックに載せた山車で広い地域を回ります。33年毎に葉山の森山神社と行われる三十三年大祭が近づいてきていますので、これからも他の町と一緒に小坪のお囃子を益々盛り上げていければと思います」

東谷戸 大塚 E-mail : higashiyato@gmail.com

こつぼのひと

小坪川かるがも会代表

草柳 聡一さん



小坪で生まれ育ち、高校、大学は酪農専攻で北海道へ。酪農学園大学在学中にチーズ製造専攻。卒業後、スイスの農業研修中(2000～2001年)にナボリのピザ職人と石窯ピザに出会う。帰国後の2005年7月、小坪に「自遊人処」をオープンして今年で19年目を迎える。

自然豊かな小坪川は

未来へ伝えるべき大切な財産です

「この街が好きで漁師さんや釣り船を眺めて育ちました。10年程前から船に乗らせていただくようになって、現在はオーナーシェフとして店に立ち、自分の船で漁に出ています。漁師は自然と向き合い生命の危険にさらされる仕事。仲間を大切にするコミュニティの良さが漁師さんの世界にはあります。時代によって途絶えてしまう地域の魅力が多い中、小坪には歴史的に守られてきた文化や自然が今も残っています。50年程前に蛍が見られた小坪川は、環境の変化で清川と呼ばれていた時代がありました。"ひとつでも光を見つけれたら希望になる"という河川の保全活動を行う専門家からもアドバイスをいただき、かるがも会では毎月1回川の清掃を行っています。今では蛍の幼虫の餌となる「カワニナ」が確認できるほど生態系が戻りつつあります。蛍の再来を願いながら、これからも小坪の街が子どもたちにとって誇りとなるような活動をしていきます」



- 1.小坪川で子育てをするカルガモ夫婦の隣りに空き缶を見つけたことが川の掃除を始めたきっかけ。
- 2.会の名前を「かるがも会」として21年7月から活動をスタート。毎月一回、7～8名の有志の方が集まって川中の清掃を行っている。
- 3.自然豊かな小坪川では、さまざまな生物が生命を育む。蛍の幼虫の餌になる「カワニナ」もそのひとつ。

1970年創業の老舗

TAC21 自然食品の店 にんじん屋

化学合成成分に頼らない

おいさと小坪の恵みを伝える



うみまちさんぽ



2



3

にんじん屋の歴史は、自然食という言葉がまだ耳慣れなかった1970年代に遡ります。東京世田谷に8坪という小さなお店を創業。無農薬野菜や伝統製法の調味料、日本古来の雑穀「卑弥呼」など2,000種もの商品が所狭しと並ぶオーガニック食材店の先駆者的存在でした。「当時、美容院の経営で多忙を極め、不規則な生活にドクターストップが掛かりました。それが真剣に身体と食に向き合い、さらには開業のきっかけとなりました」と代表取締役の田耕邦子さん。90年代に入り、チェルノブイリ原発や農薬、食品添加物が問題視されて自然食への関心が高まる中、化学調味料を一切使わないオリジナル商品を手掛けるなど、常に一歩先に進んだ食文化を発信。2006年に本社と営業所を逗子へ移転してからは、小坪の漁師さんと協働でアカモクやウニなど地産の恵みを使ったこだわりの商品を手掛けています。営業所には販売コーナーもあるので、お散歩がてらふらりと立ち寄って安心でおいしい食材をぜひ手に取ってみてください。

- 1.小坪産のアカモクとウニ殻カルシム、ハト麦が配合された「ぬか床」(税込1,499円)は、水を加えるだけで翌日に美味しいぬか漬けがいただける。
- 2.自然食品店「にんじん屋」を東京、恵比寿に開店したのは1975年の頃。
- 3.披露山営業所にはオリジナル商品をはじめ、全国から厳選されたこだわりの逸品が並ぶ。

Information

神奈川県逗子市新宿4-15-17 TEL 046-873-6888
営業時間 9:00～19:00(日曜・祝日休)
<https://www.tact21supermarket.jp>

こつぼだより

小坪小学校 創立150周年おめでとう!

2024年、5月25日に小坪小学校は開校から150年を迎えます。歴史を振り返るとともに子どもたちの生活の場の活性化に貢献できるようなイベントの開催、記念誌発行等の記念事業を計画しています。つきましては、子どもたちを応援する気持ちを込めましてみなさまからのあたたかなご寄付を募集しております。

寄付のお願い

個人でご寄付いただける方は、一口1,000円からお受けいたします。一口以上の寄付金をいただいた方は、150周年記念誌の氏名掲載を予定しています。

- 受付期間 2024年3月15日～12月31日
- 寄付の方法 下記の口座へお振り込み
かながわ信用金庫 逗子支店
普通 1271326
口座名義 コツボショウガッコウビーティーエー(小坪小学校PTA)

※学校で活動しているPTA口座とは別口座となります。 ※振込手数料は振込者のご負担となります。 ※振込の控えは大切に保管をお願いします。